

児玉龍彦(内科医、東大先端研)の「提言」

カテゴリ: 時事問題

コロナ対策の現状・問題点と今後のあるべき取り組みについて児玉龍彦教授が明解に述べています。

今回の事態の深刻化の原因は、非常事態宣言が遅すぎたということではなくて、検査体制の整備をさぼってきた行政にあることがよくわかります。

ぜひ、ご覧ください。

〔番組の説明文〕

児玉龍彦先生（内科医、東大先端研がん・代謝プロジェクトリーダー）にうかがいます。

緊急事態宣言は出されましたが、中身は外出の自粛。東京では、すでに病院の中に感染が入り込み、中核病院が崩壊しようとしています。

感染の広がり調査し、感染が集中する地域を確定して封じ込めそこに周辺から医療資源を大量に投入する、今こそ正しい感染症対策に立ち戻らなければ、なすすべもなく東京は崩壊します。

「大量検査、徹底追跡、隔離徹底」を当初から訴えてきた児玉龍彦先生に現状を聞きます。新型コロナは、「軽症」に分類されている人でも高熱が長く続き、痛みも強く、消耗しています。その実態を広く共有し、東京の医療資源の有効活用を図るリーダーがまずは必要です。金子勝先生の緊急経済対策批判とともに、ぜひ。

収録は、2020年4月8日

自分で考えいのちを守れ！新型コロナと闘う その先の未来へ200408

(1) オーバーシュートが始まった

このウィルスの特徴

- いままでのウィルスにない強い相手
- 人の体に入って消えるまでかなり長い時間かかる
- 急に重症化する

日本の感染症医療ソーシャルデザインの父：賀来満夫東北大名誉教授

東京都内の新型コロナウイルス感染者数の推移(累計)
東京都のデータから

日付	感染者数(累計)
1月24日	0
1月30日	0
1月31日	0
2月5日	0
2月10日	0
2月15日	0
2月20日	0
2月25日	0
3月1日	0
3月5日	0
3月10日	0
3月15日	0
3月20日	0
3月25日	0
3月30日	0
3月31日	0
4月1日	0
4月5日	1000

感染が二次、三次と広がり追えなくなった
政府、大企業はテレワークに（自発的にやめる）

大企業、政治家、高級官僚、富裕専門職は完全テレワークに移行、百貨店

弱者は「懇懇に」働かされる（強制的にやめさせない）

中小の企業、コンビニ、スーパー、配送業、理髪業は、
社会的富裕層のニーズに応じ「禁止されない」

3:06 / 42:51

